

**2022年度 法科大学院**  
**一般入試（第3期入試）**  
**特別入試（法曹コース開放型入試）**  
**入学試験問題**  
**3時限**  
**刑法**  
**（論文式）**  
**試験時間 50分**

**注意事項**

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

## [刑法]

次の事例におけるX及びYの罪責について論じなさい。

### (事例)

Xは、Vが、数字選択式宝くじであるロト6に必ず当選する特別抽選に選ばれたことによりその当選金を受け取ることができると誤信しているのに乗じ、Vから現金をだまし取ろうと考えた。そこで、Vに対し、真実はVが特別抽選に選ばれた事実はなく、また、契約に違反した事実も違約金を支払う必要もないのにあるように装い、XはVに電話を掛け、次のように説明した。即ち、「Vさんの100万円が間に合わなかったので、立て替えて100万円を私が払いました。」「ところが、Vさんじゃない人が送ったことがD銀行にばれてしまい、今回の特別抽選はなくなりました。不正があったので、D銀行に私(X)とVさんとで297万円の違約金を払わないといけなくなりました。違約金を払わないと次の抽選にも参加できないので、半分の150万円を準備できますか。」などと嘘を言って、Vに現金150万円の交付を求めた。Vは、違約金を支払う必要があり、違約金を支払えばロト6に必ず当たる特別抽選に参加できると誤解した。そこでXは、YがE(虚無人)の名前で賃借しているマンションの一室に現金150万円を配送することを、Vに提案した。これ以前に、Xは、Yに対して、Vからの現金150万円を受け取れば、報酬として、50万円を支払うことを説明し、Yは、Xの計画を理解した上で、受け取り役を引き受けていた。しかしVが、この経緯を不審に思い警察官に相談したため、X、Yの計画が露見し、Vは現金が入っていない箱1個をYが待ち受けていたマンション一室に向けて発送した。この箱を配達業者から受け取った直後、Yは現場付近に待機していた警察官に逮捕され、その後、Yの供述に基づき、Xも逮捕された。